

大阪府感染症発生動向調査週報（速報）

2022年 第33週（8月15日～8月21日）

今週のコメント

～手足口病～ 手洗いの励行と排泄物の適切な処理が重要

定点把握感染症

「手足口病 増加」

第33週の小児科・眼科定点疾患の報告数の総計は1,095例であり、前週比10.4%減であった。定点あたり報告数の第1位はRSウイルス感染症で以下、感染性胃腸炎、手足口病、ヘルパンギーナ、突発性発しんの順で、定点あたり報告数はそれぞれ2.68、1.44、0.78、0.21、0.15である。

RSウイルス感染症は前週比24%減の526例で、大阪市西部5.20、大阪市北部4.14、北河内3.68、泉州3.47、堺市3.32であった。

感染性胃腸炎は4%増の283例で、南河内2.31、中河内2.05、大阪市西部1.60である。

手足口病は33%増の153例で、三島1.29、南河内1.06、大阪市北部・大阪市西部1.00であった。

ヘルパンギーナは2%減の42例で、大阪市北部0.43、大阪市西部0.40、三島0.29である。

インフルエンザは府内で8例の報告があった。

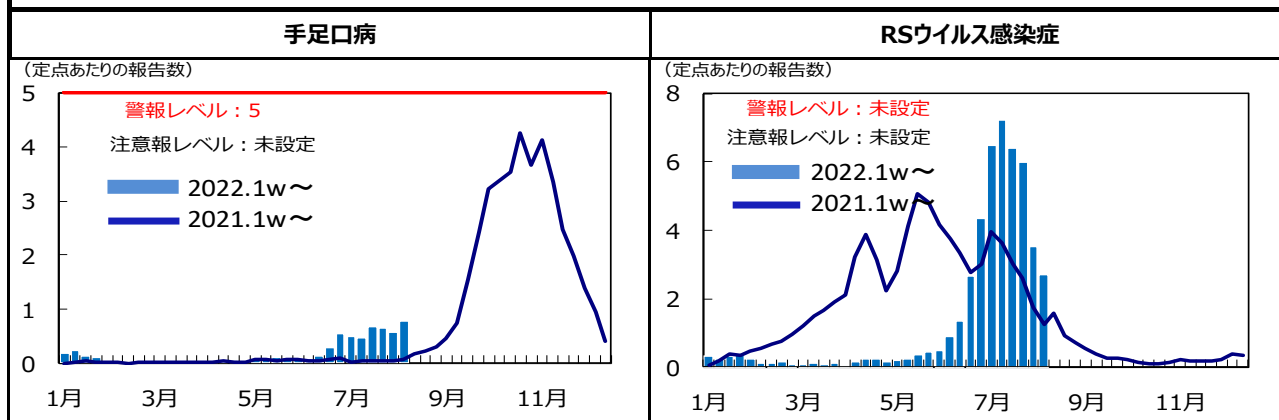


表 1. 大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2022年 第33週8月15日～8月21日）

第33週の順位	第32週の順位	感染症	2022年 第33週の 定点あたり 報告数	前週比 増減	2021年 第33週の 定点あたり 報告数	2022年第33週の 年齢別 患者発生数 最大割合値
1	1	RSウイルス感染症	2.68	24%減	1.23	1歳_31%
2	2	感染性胃腸炎	1.44	4%増	2.18	1歳_20%
3	3	手足口病	0.78	33%増	0.07	1歳, 2歳_28%
4	4	ヘルパンギーナ	0.21	2%減	0.09	1歳_31%
5	6	突発性発しん	0.15	14%減	0.26	1歳_57%

突発性発しんについて、(1)季節変動はないこと、(2)毎週の定点あたり報告数は一定していること、(3)年次による差異もほとんどないことから、本文には詳細に記載していません。2021/22年シーズンのインフルエンザ集計は第12週で終了しました。

第33週のコメント

～梅毒～ 大阪府における梅毒累計報告数は、年間報告数が過去最高であった2018年の同時期より多くなっている。

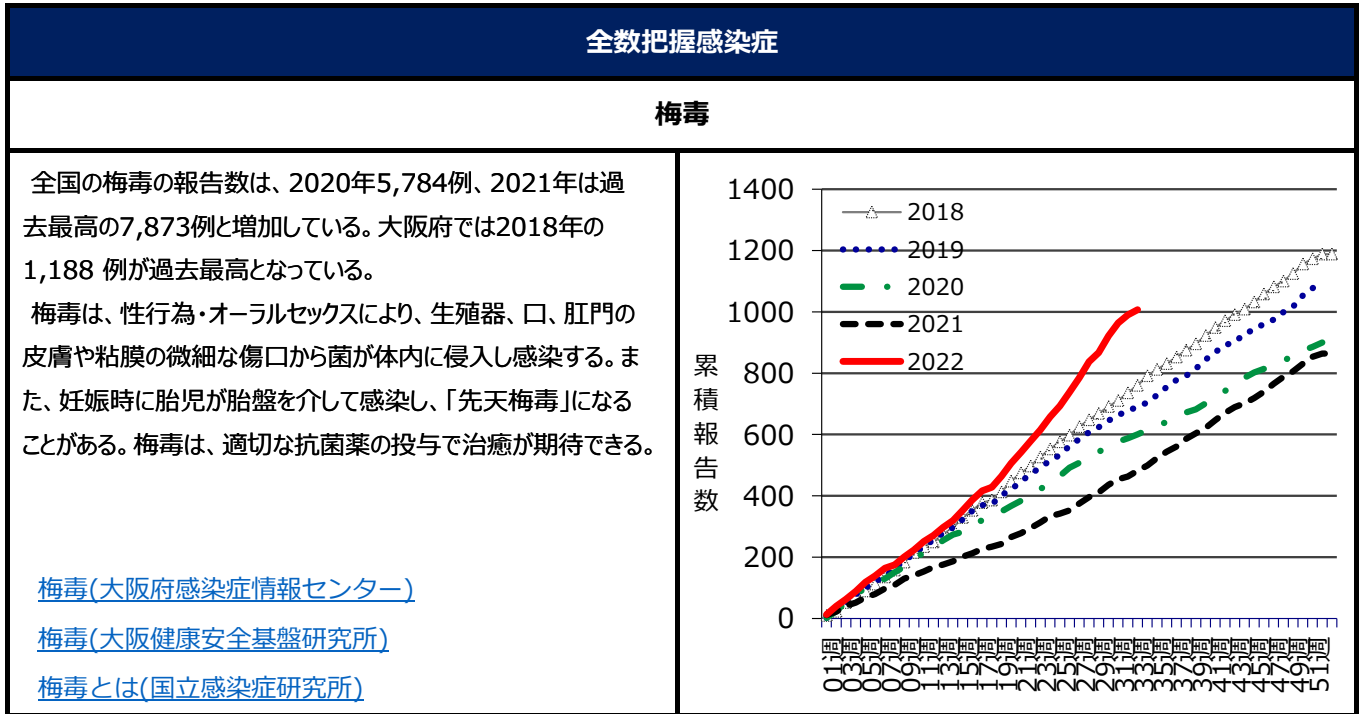


表 2. 大阪府全数報告数（2022年 第33週8月15日～8月21日）

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります（報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ>【週報】>全数把握疾患 をご覧ください。）

	疾患名 () 内の病型は今週報告分のみ 府内累積報告数の内訳は省略	報告数	豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪府	府内累積報告数
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	2		1					1		97
4類感染症	レジオネラ症（肺炎型）	1		1							65
	レジオネラ症（ポンティアック熱型）	2								2	
5類感染症	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	2			1	1					78
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1								1	23
	侵襲性肺炎球菌感染症	1								1	58
	梅毒	17	1			2				14	1007
新型インフルエンザ等感染症	新型コロナウイルス感染症	139,042	2020年1月以降累計 1,771,502								
結核 (2022年6月分)	結核 新登録患者数：81名 (内 肺・喀痰塗抹陽性 34名) (府内累積報告数 528名、内 肺・喀痰塗抹陽性 194名)										

(2022年8月23日 集計分)

新型コロナウイルス感染症の報告数は、大阪府の報道発表の報告数を示しています。

詳細はリンク先の『令和2年11月1日まで』と『令和2年11月2日以降』をご覧ください。